

情報をもとに、自分の考えを書く力を高める授業の実践

～習得した表現方法を活用させて～

見附市立今町小学校 教諭 小野塚 紀子

1 はじめに

○子どもたちの悩み

ノートに感想や自分の考えを書く活動を授業の中に取り入れている。自分の考えを書くことはできるが、筋道を立ててくわしく書くことができる子は少数である。感想や自分の考えを書く時に、何が難しいのか尋ねると、「どのような順序で何を書けばいいのか分からない。」という言葉が返ってきた。書きたい思いはあるが、自分の考えを豊かに表現する方法や内容が分からないことが分かった。

また、1学期、社会科見学に行った時に取ったメモを活用して新聞を書く活動を行った。新聞記事の内容を見ると、メモの中から自分が一番書きたい内容を選び、詳しく書くのではなく、メモの羅列になっているものが多かった。

○見えてきた課題

調べ活動で得た多くの情報を使って、自分の考えや思いを文章で表現する時に、子どもたちの書く勢いが弱くなる。子どもたちの姿より、自分の考えや思いを表現する力に課題があることが分かった。

そこで、「自分の考えや思いを表現する力」を高めるために有効な手だてを考え、国語科の授業で実践し、子どもたちの思いを実現したいと考えた。

2 「調べたことを発表しよう」国語科研究授業より

(1) 単元の構想

教科書教材『「伝え合う」ということ』(光村図書 4年上)を中心に、自分の考えや思いを表す力を高めることを目指した単元を構想した。

本単元の中に位置付けた、自分の考えや思いを表す力を高めるための学習活動は、次の2つである。

1つ目は、自分で設定した課題を解決するために調べてきた内容を発表原稿にまとめるという学習活動である。メモの羅列にならないように、調べてきた結果から情報を選択する際に、選ぶ情報の数に条件を加えたり、教科書にある発表原稿の構成をもとに原稿を書いたりしながら、自分の考えや思いを文章で表現させていく学習活動を構想した。

2つ目は、学習の中で考えてきたことを感想にまとめるという学習活動である。収集した情報を活用しながら自分の考えをより具体的に書くと、相手により分かりやすい文章となることをおさえ、自分の考えを書く学習活動を通して自分の考えや思いを表す力を高めていきたいと考えた。

また、本単元のゴールを、「調べて分かったことやインタビュー活動から得た情報を自分で解釈し、作り上げた思いを目の不自由な方に伝える」とした。伝えたい相手に自分の思いをわかりやすく伝える方法を考えていくことで、相手の立場に立って考えるものの見方が養われていくと同時に、どのように自分の考えや思いを伝えるか、豊かな表現方法を考えていく子どもの姿を期待した。

(2) 単元の実際

○手だて① 「書きたい思いをふくらませるための単元の工夫」

資料や説明文から得た知識が本当かどうかは、実際に聞いてみなければ分からない。そこで、もっと知りたいことを目の不自由な人と実際にふれ合う体験的学習の中で調べていく活動を取り入れた。

目が不自由な方をゲストティーチャーとして迎え、目が不自由な方の気持ちや実生活の様子について教えていただいた。知りたいことをたくさんもって授業に臨んだ子どもたちは、目の不自由な方の話す内容、見せてくれる物に関心を持ち、意欲的に質問をすることができた。



授業後の子どもたちの表情や言葉から、目の不自由な方の生活や気持ちについて知ることができた興奮が伝わってきた。実際にふれ合う体験的学習を通して、目が不自由な方の生活や気持ちについて知ることができた喜びを感じたり、自分が考えていたこととのズレに気付いたりすることができた。その「喜び」や「気付き」が、「話を聞いて考えたことや思ったことを目の不自由な方に伝えたいな。」という気持ちを高めさせ、書くエネルギーにつながっていった。

○手だて② 「習得した表現方法を活用させながら学習を進める」

「どのような順序で何を書けばいいのか分からない。」という子どもの声を受け止め、基礎的な調べ方・まとめ方・文章構成・文章の書き方を学習した。そして、学習したそれぞれの方法を活用しながら学習を進めていけるようにした。特に、文章構成に重点を置き、メモをもとにくわしく文章を書く活動の際、教科書教材から学んだ文章構成の方法や感想の中に書き入れる内容を提示し、分かりやすく文章を書くための順序やその内容についておさえてから、書く活動に入った。



収集した情報を使って、自分の考えを感想にまとめる学習活動では、書きたい内容に合った情報を選択し、活用しながら文章を書けるように文章構成の内容を明確にした。

- ① 1番心に残ったこと
心が動かされたこと
- ② お会いする前の自分の考え
- ③ 話を聞いて考えたこと・思ったこと
- ④ 自分の心の変化について
これからどうしていきたいか

| ① 1番心に残ったこと 心が動かされたこと | ② お会いする前の自分の考え | ③ 話を聞いて考えたこと・思ったこと | ④ 自分の心の変化について これからどうしていきたいか |
|--|--|--|--|
| 目の不自由な方と話を聞いたこと、その様子や声の大きさ、話し方などについて感じたこと。 | 目の不自由な方と話を聞いたこと、その様子や声の大きさ、話し方などについて感じたこと。 | 目の不自由な方と話を聞いたこと、その様子や声の大きさ、話し方などについて感じたこと。 | 目の不自由な方と話を聞いたこと、その様子や声の大きさ、話し方などについて感じたこと。 |

また、「③話を聞いて考えたこと・思ったこと」を書く学習では、読み手に自分の考えをわかりやすく伝えるために有効な観点について考えさせ、見つけた観点を使って自分の考えを書いているかどうか見直す学習を行った。

子どもたちが考えた

読み手にわかりやすい「自分の考え」を書くために有効な方法

- 理由法（なぜなら・・・、～だから・・・） ○予想法（・・・なのではないか）
○自分法（自分なら・・・、自分とくらべて・・・） ○具体的法（実際に聞いた内容 等）

3 単元を通した子どもの変容 ～A児の学びの姿から考える～

目が不自由な方からお話を聞いて、「時間を知りたい時は、時計の針を指で触ること」が一番心に残ったA児は、収集した情報を使って「話を聞いて考えたこと・思ったこと」を次のように書いた。

話を聞いて、〇〇さん一人でも時計の針を指で触って時間が分かるんだなと思いました。あと、〇〇さんは、つらそうではなく、明るく、物知りな方なんだなと思いました。

感想文を書いた後、友達と読み合う活動を行った。自分が書いた文章を友達に聞いてもらううちに、首をかしげるA児。A児は、「『一人でも時間が分かることがすごい』という内容を書きたいんだけど、なんかつながっていない。」と言った。A児は、書いた内容を交流活動の中で見直し、書きたいことと違う情報を使って文章を書いていることに気付くことができた。そして、自分の考えを書くときの観点を使って、次のように書き直した。



「ただ、時計の針を指でさわって時間が分かるという話を聞いて、今井さん一人でも時間が分かるんだなと思いました。私は、目で時計を見ているので、すぐに時間が分かるけど、もし、私が目が不自由だったら、今井さんのように、上手に時計を読めないと思います。1時や2時は、針の位置がななめになっているのに、指で触って分かるなんてすごいと思いました。」

A児は、「具体的法」や「自分法」を活用して文章を付け加えて、よりわかりやすく自分の考えを書くことができた。また本単元学習後の他の課題にも、「ここでは、自分法を使ったんだ。」「これは、予想法だね。」と、習得した観点を使って自分の考えを書く子どもたちの姿が見られた。

このことから、収集・選択した資料や情報を活用して文章を書く力を高めるには、「書く目的をもたせること」や「見直す時間を確保すること」とともに、「文章構成の内容を明確にすること」や「自分の考えをふくらませるための観点を示すこと」が有効であることがわかった。

4 終わりに

情報の羅列にせず、話を聞いて考えたことをより読み手にわかりやすく伝えるためには、どのように書いたらいいのかと悩む児童の実態がある。そこで、自分の考えをわかりやすく書くための観点を見つけ、その観点を使って書くと自分の考えがよりわかりやすく表現できるということを授業で提案した。子どもたちが見つけた観点を使って自分や仲間の文章を振り返る活動は、自分の考えがぐわしく書かれているかどうかを見直すことには有効であった。

授業の実践を終えて、自分の考えを書くための観点の内容や授業における提示の仕方に課題が残った。自分の考えをわかりやすく書くためには、どんな観点を提示すればいいのか、また、子どもたちにどのように見つけさせていけばいいのかを考えていくことが、今後の課題である。